

鹿児島県における 産業動物獣医療提供体制に関する 調査概要

令和 7 年 3 月 3 日

鹿児島県における獣医療県計画の現地調査（概要）

- 令和6年11月11,12日の2日間で、鹿児島県における「獣医療を提供する体制の整備を図るための計画」の取組状況について現地調査を実施
- 現地調査は「獣医療を提供する体制の整備を図るための基本方針」の策定を担う獣医事審議会計画部会の委員及び農林水産省で実施

※獣医療法において、農林水産大臣が「獣医療を提供する体制の整備を図るための基本方針」（基本方針）を定め、都道府県は基本方針に基づき「獣医療を提供する体制の整備を図るための計画」（県計画）を定めることが可能。

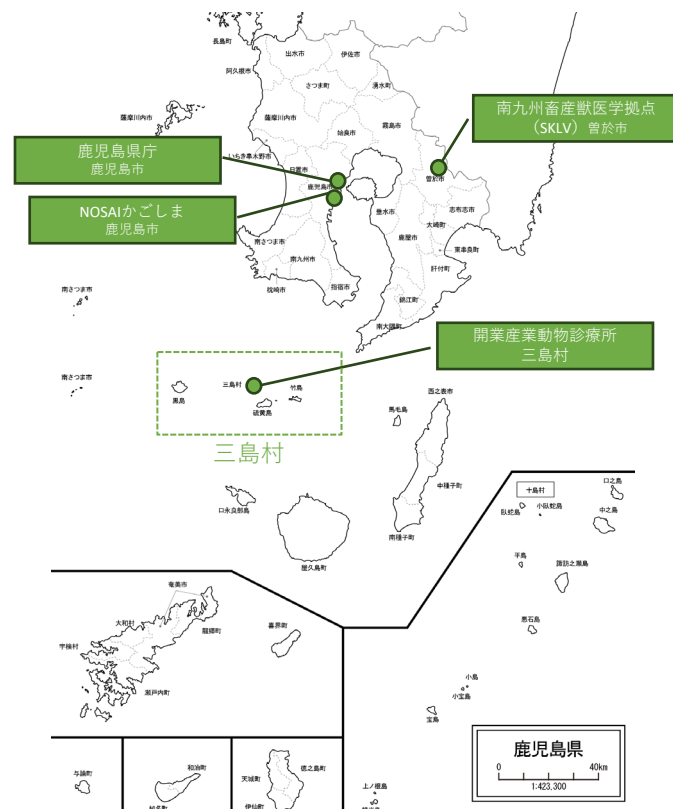
鹿児島県の畜産規模

- 飼養頭羽数は肉用牛（肉用種）、豚、ブロイラーで全国1位（R6.2.1）
- 畜産の産出額は、鹿児島県の農業産出額の約6割（R4）

現地調査の対象施設

特に産業動物の獣医療提供体制を調査するため、以下4ヶ所を選定。

- 鹿児島県庁 鹿児島市
- NOSAIかごしま 鹿児島市
- 開業産業動物診療所 三島村
- 南九州畜産獣医学拠点（SKLV）曾於市



鹿児島県における獣医療県計画の現地調査（概要）

産業動物獣医療に関する県計画の概要

令和12年度を目標として令和3年3月に策定。

- **産業動物分野における公務員獣医師の目標数105名※**。調査時98名。
- **産業動物臨床獣医師の目標数342名※**。策定時327名。

※ 目標とする家畜の飼養頭羽数と獣医師1人当たりの年間診療可能頭羽数、産業動物獣医師に対して実施した、畜種毎の獣医師不足度合に関するアンケート結果に基づき設定。

産業動物の獣医療提供体制に関する調査結果概要

農林水産公務員獣医師

- 県単独予算も含めた修学資金事業の実施。
- 職員立案型研修の充実。
- 県内の獣医師確保・定着の観点から、鹿児島県庁とNOSAIかごしまの連携。

産業動物診療獣医師 NOSAI獣医師

- NOSAI宮崎が実施している九州管内全体の研修に参加。

開業産業動物診療所 開業獣医師

- 遠隔診療を効果的に活用。

南九州畜産獣医学拠点（SKLV）

- 産業動物への触れ合い、他大学の学生とのコネクション作成の点で学生からは高評価。
- 卒後教育への活用。

鹿児島県庁

現状

- 獣医師職員は、本庁、家畜保健衛生所、畜産試験場等に配置。
- 獣医師職員の人数は**213名**（農林水産部局の獣医師**98名**、公衆衛生部局**115名**）。
- 農林水産部局の獣医師職員は**7名不足**（公衆衛生部局の獣医師職員は15名ほど不足）。
- 豚熱や鳥インフルエンザ、ランピースキン病等の家畜伝染病の対応により獣医師の業務は**大幅に増加**。
- **他職種へのタスクシフト**を検討するも**人手不足で難しい**。
獣医師のみならず畜産関係職員（畜産技師・臨床検査技師等）も不足。

獣医師確保・育成対策

- 獣医系大学でリクルート活動を実施（対面、オンライン）。
- 県HPや県公式SNS（Facebook、X）を用いた情報発信。
- インターンシップの通年受入れ。
- **初任給調整手当を増額**（R5～）
30,000円/月 ⇒ 60,000円/月へ増額。
- **県単独予算も含めた修学資金事業の実施**。
鹿児島県職員の採用者に占める修学資金受給者の割合は**約5割**。過去合計76名に修学資金を給付。
- **職員立案型研修の充実**。
国外研修で100万円/人（米、南米、欧州等の大学や食肉検査所等）、
国内研修で30万円/人（国内大学や農研機構動物衛生研究部門等）を措置。
- 県内の獣医師確保・定着の観点から、**鹿児島県庁とNOSAIかごしまの連携**。

今後の課題

- 業務量を考慮し、家畜保健衛生所の**担当すべき業務**（獣医師でなければいけない業務）の**再精査**。

NOSAIかごしま

現状

- **若手獣医師・氷河期世代の不足。**
獣医師が不足している診療所が存在（**北薩**、**大島**）。
- **獣医師全体の業務量増加。**
休日当番が5日/月、夜間当番が7,8日/月。休暇取得率は67.5%。
近年、獣医師の採用数を増やしているが、定員割れ。
- **輸送費や医薬品費が桁違いに高額。**
農家の減少と点在化。島嶼部の存在。

獣医師確保・育成対策

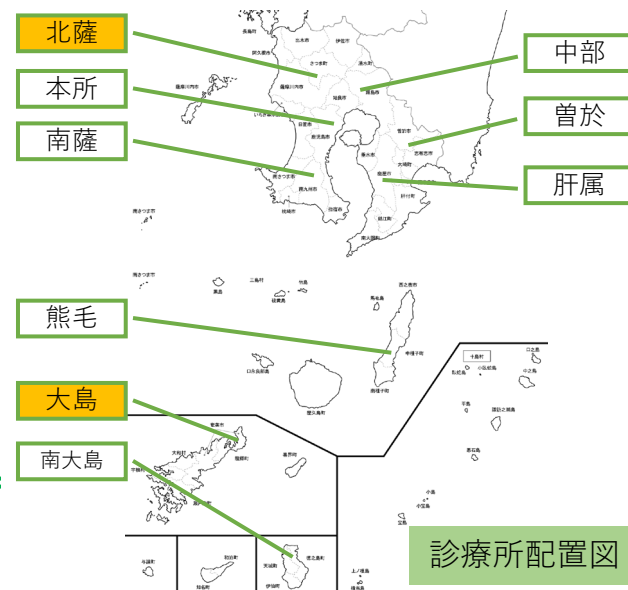
- 国の修学資金事業、大学でのリクルート活動などを実施。
- NOSAIかごしま単独の**研究発表会**の実施。
- 初任者研修はNOSAI宮崎実施の**九州管内全体の研修**に参加。（**人脈形成を重要視**）

遠隔診療

- 一部島嶼部において遠隔診療を実施。
初診時に対面診療を行った牛の**継続診療**に適用。
- 国事業によりタブレット機材を導入。しかし、以下の**課題の解決が急務**。
ソフト面：アプリケーションが現場の実態と乖離（**農家側が不慣れ**）。
ハード面：医薬品の配送に要する時間や電波アクセスの問題（**島嶼部が起因**）。

今後の課題

- 獣医師の業務量改善。
- 休暇等を確実に取得できる体制の構築。
- 本所勤務獣医師（保険業務を行う獣医師）の待遇改善。
- 遠隔診療のため電波アクセスの拡充、遠隔診の点数の改善。



開業産業動物診療所

三島村について

- 竹島・硫黄島・黒島の3島からなる村。
- 鹿児島県の薩摩半島南端から南南西に約40kmの場所に位置。
- 畜産規模
農家戸数26戸、繁殖雌牛が500頭ほど。放牧での飼養形態。
繁殖和牛が多く、肥育は未実施。
- 各島在住の獣医師は存在せず。
- NOSAIの死亡事故共済のみを取入れ。
- 定住促進のため、**村による牛の導入費用負担や牛舎の貸出し**などの就農支援を実施。



診療形態

- 「出張往診」と「遠隔診療」により獣医療を提供。
- 出張往診には予防注射や妊娠鑑定、去勢、除角、各種検査、病勢鑑定等。**1回/月のペース**。
- 遠隔診療には指示書の発行、農家への対応指示等。**24時間365日体制**。
- 遠隔診療について
島内の牛舎と住宅を中心に光回線が導入（村予算）されたことが契機となり開始。
メッセージ系SNSを活用。農家側から動画や画像を送信し、獣医師側が対応を指示。
村から**リモートコンサルティング対価**として**5万円/月**を給与に上乗せ。
- **遠隔診療の推進により死亡率が低下傾向（遠隔診療の導入以降、死亡率が約10%を下回る）。**



ウェアラブルデバイスを装着し、
耳介内の様子を動画で送付する畜産農家



メッセージ系SNS上で確認する獣医師

今後の課題

- 生産規模が小さく、獣医師を雇用するのが困難。
- 更なる飼養衛生管理の向上。
- 獣医師定着のため、**獣医師が興味を持つような取組み**（遠隔診療、ICT、生産獣医療など）の実施。

南九州畜産獣医学拠点（SKLV）

施設概要

- 鹿児島県曾於市と鹿児島大学共同獣医学部が連携し、旧鹿児島県立財部高校跡地を整備。R6.4より運営開始。
- 将来の畜産業・獣医療を担う人材の育成、新たな産業の創造・交流人口の増加を目指す複合施設。
- 産業動物モデル飼育エリア、馬エリア、地方創生エリアの3エリア。

獣医学生の実習受け入れ・評価

- 全国から獣医学生を受け入れ。宿泊費のみ負担。
- R6年度は合計130名ほどを受入れ予定。
- 4コースを開講。様々な学年を対象とした実習を実施。
 - 総合コース（牛・馬・鶏・豚）：各種動物の飼養衛生管理法。
 - 牛専修コース・馬専修コース：牛・馬のハンドリングや各種検査法。
 - 家畜衛生専修コース：各種動物の防疫・衛生管理を中心に、疾病の検査、疫学調査等の実践的な手技や技能。
- 学生からは高評価。
産業動物との触れ合い、他大学の学生とのコネクション作成の点で好評。



今後の課題

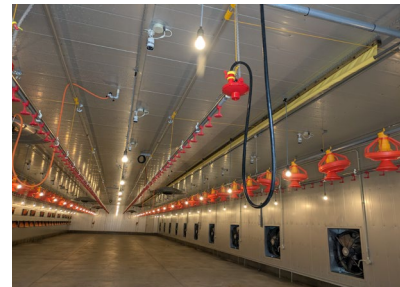
- 宿泊人数の上限、教員負担の面で実習人数に制限。ハード面・ソフト面の補強。
- 旅費助成等の拡充。（旅費が学生の負担）
- 低学年も含めた全国の獣医学生への周知。



屋内馬場



牛舎外観



鶏舎内部



宿泊施設